

第16回
日本霊長類学会大会
プログラム

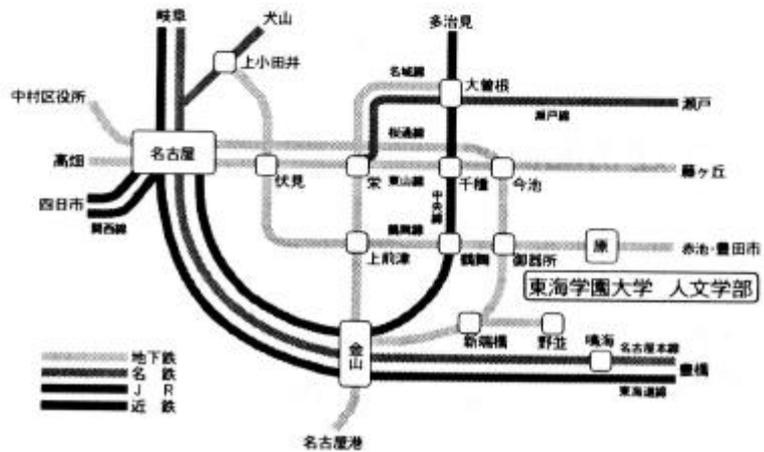
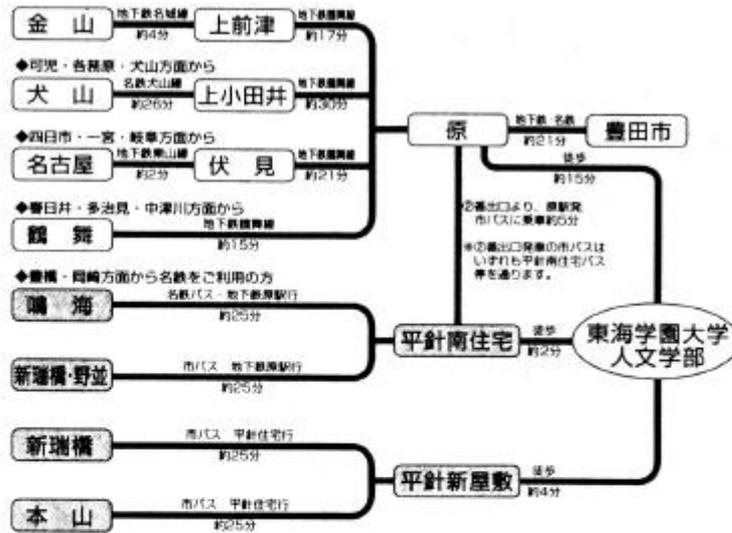


会期： 2000年7月7日(金)～ 7月9日(日)

会場： 東海学園大学人文学部 2号館

名古屋市天白区中平 2-901
地下鉄鶴舞線・原駅下車

会場までの交通



名古屋駅方面から：

地下鉄東山線で「伏見」駅まで行き（約2分）、鶴舞線に乗換え、「原」駅下車（約21分）。

番出口より、市バスに乗り「平針南住宅」バス停下車（約5分）進行方向左に徒歩2分。

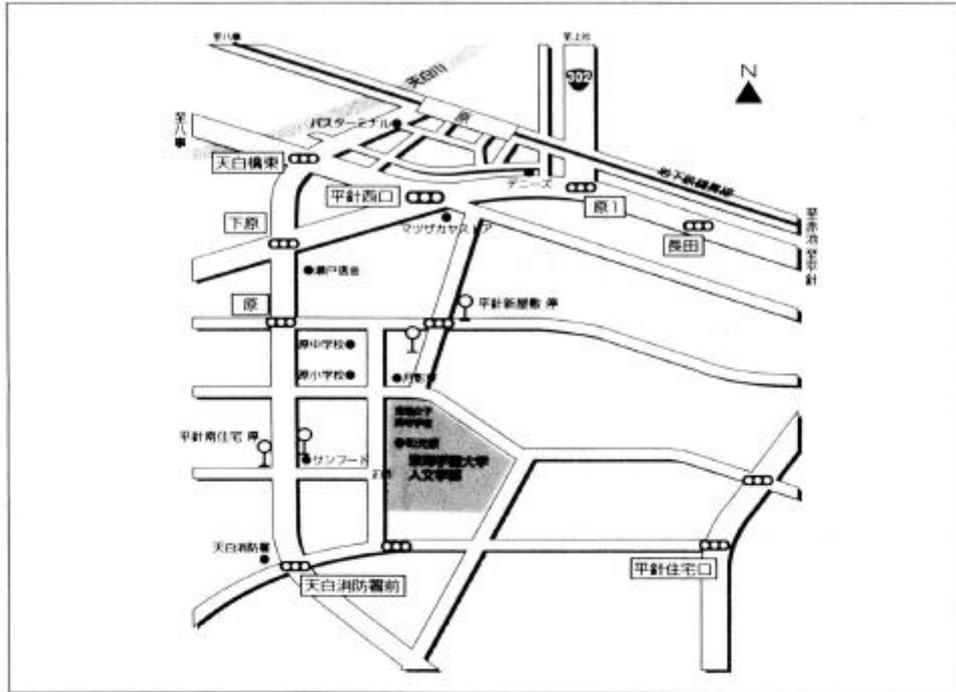
* 番出口発車のバスはいずれも「平針南住宅」バス停を通ります。

犬山・可児方面から：

名鉄犬山線で「上小田井」駅まで行き、地下鉄鶴舞線に乗換え、「原」駅下車（約30分）。

番出口より、市バスに乗り「平針南住宅」バス停下車（約5分）徒歩2分。

名古屋キャンパス案内図



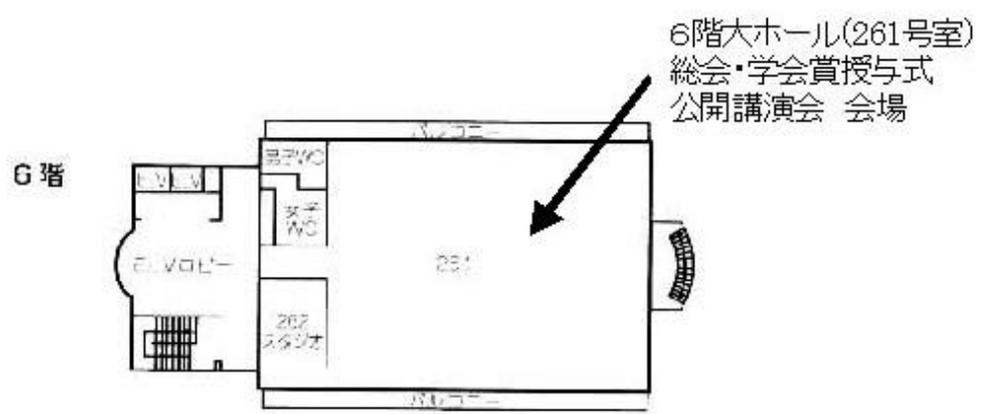
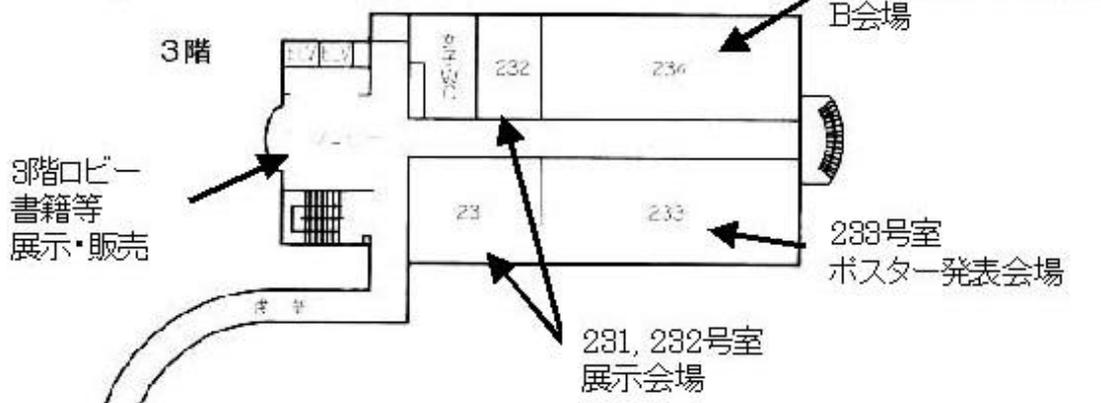
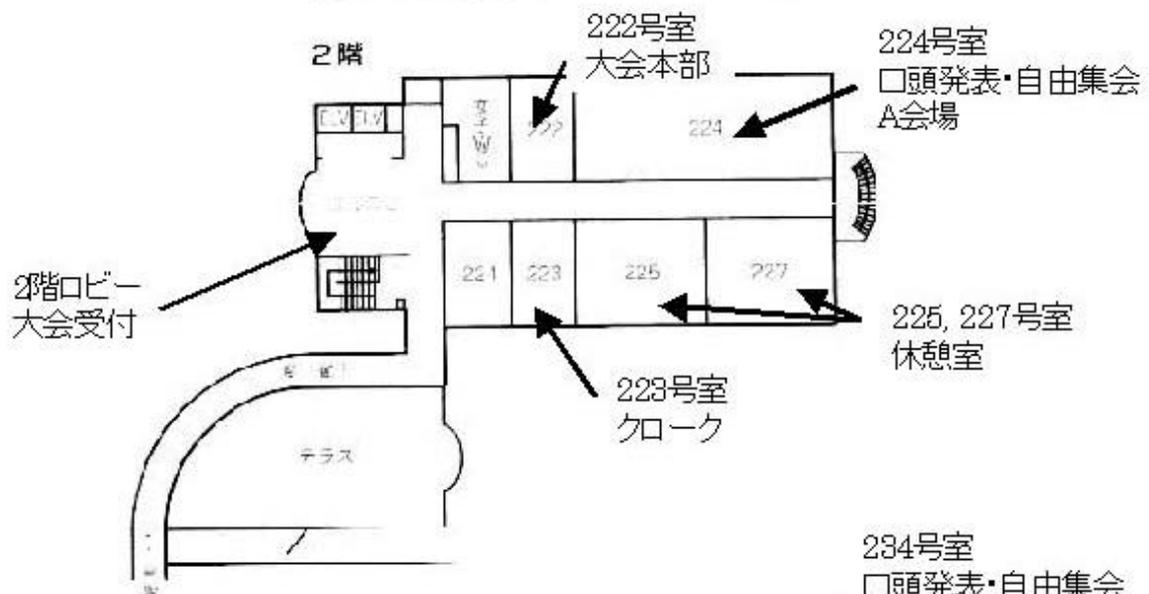
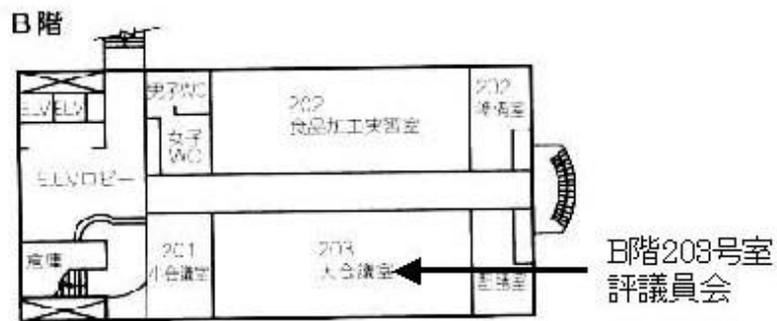
地下鉄原駅から市バスで「平針南住宅」下車徒歩2分。
または原駅から徒歩約15分。

学内建物配置図



会場案内図

2号館



<大会に参加される皆様へ>

1. 大会会場

大会は東海学園大学人文学部・2号館を会場として開催いたします。

会場へのアクセスや、校内校舎の配置については、本プログラムの13ページに掲載している案内図を御覧下さい。

キャンパス内に駐車場はありません。又、大学周辺のすべての道路は駐車禁止になっています。車での御来場は御遠慮ください。

男子トイレは2号館地下と6階、1号館の各階、4号館と5号館の各入口にしかありませんので、御注意ください。

2. 大会受付

大会受付は7月7日(金) 午前9時から、8日(土)、9日(日) 午前8時30分から、**2号館2階ロビー**の大会受付で行います。参加者は、まず初めに、受付にお立ち寄り頂き、名札と予稿集をお受け取り下さい。会場内では常に名札をお付け下さい。尚、金曜日には通常の授業が行われています。部屋・建物の出入りは静かにお願いします。

大会参加費等未納の方は、参加費6,000円(学生・非常勤職者5,000円)、懇親会費7,000円を受付でお支払い下さい。

参加費等の領収書を当日必要とされる方は、受付にお申し出下さい。

昼食は学内食堂(5号館)が利用できます。会場から2分のバス通りに出れば、食堂は多数あります。

3. 評議員会、総会、学会賞授与式、懇親会、公開講演会

評議員会は7月8日(土) 12:10 13:10に2号館 B階203号室で、総会及び各授与式は6階大ホール(261号室)で7月8日(土) 16:30 18:00に開催されます。

学会賞・特別功労賞・名誉会員授与式は、総会に引き続き、6階大ホールで行われます。

懇親会は、7月8日(土) 18:30 21:00に学内食堂(5号館)で開催されます。

公開講演会は7月9日(日) 15:00 17:00に、2号館6階大ホールで開催されます。

4. その他

2階225、227号室を会期中の休憩室としコーヒー、湯茶等を用意致します。尚、館内はすべて禁煙となっています。喫煙は屋外の灰皿のある所のみに限らせていただきますので、御協力下さい。参加者の呼び出し等は緊急の場合を除きいたしません。大会受付横に掲示板を用意いたしますので、参加者相互の連絡等にご利用下さい。大会実行委員会からの連絡も掲示板に表示することがありますので、ご注意下さい。

大会実行委員会委員とそのスタッフは青色の名札をつけております。

大会期間中の連絡先： 090-8957-5539(大会本部;7月7日~9日のみ有効)

<口頭発表をされる方へ>

1. 発表時間

発表者お一人の持ち時間は、発表10分、質疑応答5分の合計15分間です。下記のように時間経過をお知らせいたします。

第1鈴 8分経過

第2鈴 10分経過

第3鈴 15分経過

2. 発表受付

発表者は、スライド等の有無に関わらず、発表予定時刻の少なくとも30分前までに、発表会場前の『発表受付』にお立ち寄り下さい。

発表会場には、スライドプロジェクター、OHC（実体映写装置）、OHPを各1台用意します。スライド使用の方は、ご自分でスライドをホルダーに挿入し、試写、確認の上、担当者にお預け下さい。同一スライド重複使用の場合は、必要枚数をご用意下さい。OHC、OHPご使用の方は、発表時には、ご自身で操作をお願いします。OHCは、印刷物でも立体物でも映りますが、OHPフィルムは多少効果が落ちます。

A、B会場ともVHSビデオ装置はありますが、申込票で申込まれた方のみご利用ください。ビデオの試写は出来ません。会場で直ちに映写できる状態に事前にセットされたものを、発表受付で担当者にお預け下さい。講演時にはご自分で操作をお願いします。

スライド、ビデオテープをお預かりする時、預かり証をお渡しいたします。発表終了後、できるだけ早い機会に、発表受付で預り証と引き換えに、お引き取り下さい。

発表会場でのプリント資料の配布は、出来るだけお避け下さい。どうしても配布を必要とされる方は、予めご自身で必要部数を用意して、発表30分前までに発表受付にお預け下さい。大会会場でのコピーサービスは、一切いたしません。

< 座長をお引き受け頂いた方へ >

座長をお引き受け頂いた方は、担当して頂くセッションの開始10分前までに、受付にお立ち寄り下さい。発表の取り消しがあった場合には、その時間を質疑応答や、休憩等にあて、後続の発表の繰り上げはしないで下さい。

< ポスター発表される方へ >

1. ポスター掲示用パネル

用意するパネルの掲示可能範囲は、幅90cm、高さ180cmです。ただし、床近くまで掲示されると見にくくなりますので、ご注意下さい。

2. ポスター掲示

ポスター発表会場は3階、233号室です。7月8日午前9時からパネルが利用可能となりますので、午前中に掲示を終えて下さい。

パネルの左上に発表番号を掲示しておきます。発表者は、パネル最上部に『発表題名、主発表者（連名発表者）の氏名と所属』を掲示して下さい。ポスターは7月8、9日の両日掲示してください。

3. 発表時間

ポスター発表者の責任在席時間は、7月8日（土）15：15～16：15です。発表者はこれらの時間中は、各自のポスターの前で待機して下さい。

4. ポスターの撤去

ポスターは、7月9日（日）15：00までに撤去して下さい。この時間までに撤去されなかったポスターは、大会実行委員会で撤去し、処分致します。

< 『霊長類研究』掲載の抄録原稿の提出について >

『霊長類研究』15巻3号の巻末綴じ込みの抄録用紙を使用し作成されたものを、大会当日に各発表会場前の「発表受付」にご提出下さい。

提出されない場合には、予稿としてお送り頂いた原稿を、抄録として掲載させて頂きますのでご了承下さい。

第16回日本霊長類学会大会日程

第1日(7月7日 金)

9:00	10:00	12:30	13:30	16:00	16:30	19:00
(受 付 (2 階 ロ ビ ー))	自由集会1 (224) 「飼育霊長類の動物福祉と生命倫」		自由集会3 (224) 「これからの機能形態学」		自由集会5 (224) 「サル類の疾病に関するワークショップ」	
	自由集会2 (234) 「野外でもこんなことがわかる！」		自由集会4 (234) 「熱帯林の霊長類学」		自由集会6 (234) 「移入マカク類の生息の現状と対応策」	

第2日(7月8日 土)

8:30	9:00	12:00	12:10	13:10	13:15	15:00	15:15	16:15	16:30	18:00	18:15	20:15
(受 付 (2 階 ロ ビ ー))	口頭発表 Q24) ロコモーションと成長, 運動器の形態学, MRIによる形態研究, アフリカの化石	評議員会 (204)		口頭発表 Q24) 系統分類, 解剖	ポスター発表者 在席責任時間				総会 学会賞授与式 (6階大ホール)	懇親会 (5号館食堂)		
	口頭発表 Q34) 分布 現況, 種間関係, 社会行動			口頭発表 Q34) 社会生態, 民俗 & 一般								
	ポスター発表 Q33)			ポスター発表 Q33)								

第3日(7月9日 日)

8:30	9:00	12:00	13:00	14:00	15:00	17:00
(受 付 (2 階 ロ ビ ー))	口頭発表 Q24) 染色体, 分子進化, ゲノム 遺伝子, 診断 治療, プリーディング		口頭 Q24) 内分泌		公開講演会 「人間存在の基盤を探る」 (6階大ホール)	
	口頭発表 Q34) アフリカ熱帯林, 採食生態, 採食行動		口頭 Q34) 個体群・土地利用			
	ポスター発表 Q33)		ポスター発表 Q33)			

()内は教室の番号

自由集会 1

「飼育霊長類の動物福祉と生命倫理」

7月7日(金) 10:00~12:30A 会場 (2 2 4号室)

責任者：上野吉一・松林清明・鈴木樹理

連絡先：〒484-8506 犬山市官林 41-2 京都大学霊長類研究所・人類進化モデル研究センター

電話：0568-63-0561 Fax：0568-62-9559

e-mail：okuma@pri.kyoto-u.ac.jp

<内容の要旨>

昨年、宮崎大会でのシンポジウム「大型類人猿の保護と利用-チンパンジーの実験利用を中心に-」において、少なくとも二つのことが確認された。1)大型類人猿を安易に実験に利用すべきではない。2)実験利用が全面的に否定されるわけではない。しかし、「なぜ大型類人猿を特別に扱うのか?」、「否定される実験(侵襲的実験)とは何か?」といふことに関してはコンセンサスを得るまでに至らなかった。こうした理由の一つとして、大型類人猿とその他の霊長類、侵襲と非侵襲、といった2項対立的な捉え方を前提とした議論だったことが考えられる。そこで本集会では、対象を特定することなく、飼育・研究の現場と理論的考察の両方の立場から、「動物福祉を実践することは何に配慮することなのか」、さらには「ヒトが他の生命を尊ぶとはどのようなことなのか」をあらためて検討することで、飼育霊長類の実験利用はどのような方向に進むべきかについて議論を試みたい。

<演者>

上野 吉一 「開催主旨」

吉川 泰弘 「(仮題)動物実験と動物福祉」

友永 雅己 「(仮題)大型類人猿と動物福祉」

長谷 川寿一 「(仮題)倫理の生物学的起源」

米本 昌平 「(仮題)動物福祉と生命倫理」

自由集会 2

「野外でもこんなことがわかる！」

7月7日(金) 10:00~12:30B 会場 (2 3 4号室)

責任者：栗田博之

連絡先：〒484-8506 犬山市官林 41-2 京都大学霊長類研究所

電話：0568-63-0545 (内線 214) Fax：0568-63-0085

e-mail：hkurita@muh.biglobe.ne.jp

<内容の要旨>

野外で自由生活をしている動物についての情報収集には多くの制限がつきまとう。しかし多方面でそれを打ち破ろうとする努力がなされており、様々な情報を得られるようになってきた。そこで近年における方法の発展と成果について議論し、更なる発展へのステップとなることを願い本集会を企画した。室内・野外を問わず、いろいろなノウハウを持つ方やこれから研究を始めようとする方等多数の参加を願っている。

1. 森光由樹・和秀雄：胎子サイズ計測・妊娠診断・蓄積脂肪量推定
2. 栗田博之・西川陽行・下村忠俊・藤田忠盛：アカンボウと成熟雌の縦断的体重測定
3. 藤田志歩・光永総子・清水慶子：糞中ホルモンによる排卵と受胎の推定
4. 橋本千絵・早川祥子・竹中修：DNA から何が見えるか：野生集団の生態、社会関係、社会構造の分析
5. 今川真治：アルゴシステムを用いたニホンザル追跡の可能性
6. 金森正臣：小ほ乳類の野外調査から得られる情報
7. 総合討論

自由集会 3

「これからの機能形態学-機器の利用と新しい分析」

責任者：濱田 穰・中務真人

7月7日(金) 13:30~16:00A 会場 (224号室)

連絡先：〒484-8506 犬山市官林 41-2 京都大学霊長類研究所・形態進化分野

電話：0568-63-0521 Fax：0568-61-5775

e-mail：hamada@pri.kyoto-u.ac.jp

< 内容要旨 >

霊長類の機能形態学的研究、特にロコモーションに注目した研究では実験と野外観察は重要手段であり多くの成果が得られている。しかし、幾つかの問題点がある。動作解析実験では主に水平もしくは垂直のみの支持基体上の運動を床反力計や筋電図を利用して分析してきた。野外観察では異種間でも同一の運動カテゴリー(垂直登攀・跳躍等)を作入、それらの使用頻度比較を行ってきた。だが自然状態での支持基体は水平・垂直に限らず多様であるし、異種間で同一カテゴリーの運動をどの程度等価のものとして扱ってよいか不明である。近年、三次元動作解析装置や内視鏡、X線カメラ等の利用、実験用支持基体の多様化、によって動作解析実験は更に精緻になってきた。また、ビデオカメラの低価格化、軽量化、解像能やバッテリー機能の飛躍的向上により、野外における動作解析も容易になった。これらの機器を利用した研究を発表し、今後の機能形態学について討論を行う。

自由集会 4

「熱帯林の霊長類学-地域間比較研究の展望」

7月7日(金) 13:30~16:00B 会場 (234号室)

責任者：鈴木 滋・橋本千絵・竹ノ下祐二

連絡先：〒京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学理学部・人類進化論研究室

電話：075-753-4085 Fax：075-753-4098

e-mail：suzuki@jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp

< 内容要旨 >

熱帯林の地域間比較研究の好機である。熱帯林では森が深く、霊長類の観察条件はいいとはいえない。しかし、社会や行動がよく見られない分、熱帯林のダイナミックな環境の把握と霊長類の採食・行動・特性社会構造との関連についての研究には、ここ10年ほどの間、それまでよりも力が注がれてきた。そこで、各調査地の基礎データをもちよってみると、熱帯林の多彩さと、そのすむ霊長類の多様性と共通性が浮き彫りになってきている。たとえば、主要な果実の結実のピークや欠乏の季節は、調査地間で驚くほど違っている。また、それまで類人猿に対象が限定されていた研究も、他のサルやゾウなどの大型動物や植物との相互関係などを対象に、熱帯林生態系の研究へと育ちつつある。この集会では、試みとして、アフリカ霊長類のいくつかの調査地間での地域比較研究の視点と分析例を紹介する。そして、今後検討すべき問題群と比較のための方法論についても討論し、対象地域や種などを広げたさらなる比較研究の誘い水としたい。

自由集会 5

「サル類の疾病に関するワークショップ」

責任者：吉川泰弘・柳井徳磨

7月7日（金）16:30～19:00A 会場

連絡先：〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学農学部・獣医病理学教室（柳井徳磨）

電話：058-293-2944 Fax：058-293-2944

e-mail：yanai@cc.gifu-u.ac.jp <http://www.gifu-u.ac.jp/yanai/YANAI.HTML>

< 内容の要旨 >

環境汚染，内分泌攪乱物質の影響評価あるいは遺伝子組換え医薬品，遺伝子治療評価などに，ヒトに近縁なサル類を実験に用いる機会が増加している。しかし，サル類の病的状態に関する基礎情報は非常に少なく，また，研究者間の情報交換の場がないため，それぞれの経験をデータベースとして蓄積する方法がなかった。そのため，動物検疫の基礎となる感染症に関する情報や，医薬品開発のための薬効，安全性試験の基盤となる，自然例での感染症，腫瘍，加齢性疾患に関する情報を互いに持ち寄り，日本における感染症を含めたサル類の病態，病理の情報交換の場を確保する目的で本研究会を企画した。また，ワークショップを通じて公表した症例や疾病の情報を基に，“サル類の疾病に関するアトラス”を刊行する予定である。

- ・サル類由来の人獣共通感染症（吉川泰弘）
- ・免疫抑制状態での日和見感染症（柳井徳磨）
- ・サル類の加齢性病変 - 老人斑について（中村紳一郎）

自由集会 6

「移入マカク類の生息の現状と対応策」

7月7日（金）16:30～19:00B 会場

責任者：和 秀雄・丸橋珠樹・大沢秀行

連絡先：〒484-8506 犬山市官林 4 1 2 京都大学霊長類研究所

電話：0568-63-0543 Fax：0568-63-0564

e-mail：ohsawa@pri.kyoto-u.ac.jp

< 内容の要旨 >

ニホンザルとの交雑が可能なアジア諸国のマカク類の野生化が各地で報告されている。とくに和歌山市周辺に生息するタイワンザルは最近急速に個体数を増し170頭以上に達する状況である。また周辺のニホンザルとの間で多数雑種化していることも明らかになった。本自由集会は，霊長類学会保護委員会が中心になり移入マカク類問題への取り組み活動の中間報告をすること，およびその問題点の議論を広げるべく開催したものである。報告は，和歌山におけるタイワンザル移入の経緯とその後の生息状況，雑種化の遺伝的学分析，移入集団，雑種に対する基本的立場と対応策の検討，房総等他地域の移入マカクの現状報告などを予定している。これらについて5人から報告を受けその後討論を進めてゆきたい。

霊長類学会第16回大会公開講演会

「人間存在の基盤を探る」

7月9日(日) 15:00～17:00

2号館6階大ホール

連絡先：第16回日本霊長類学会大会実行委員会

7月6日まで 電話：0568-63-0576 Fax.：0568-63-0085

7月7日～9日：電話：090-8957-5539 (大会本部)

開催の趣旨：

今ほど人間の本性が問われている時代はかつてなかったでしょう。人間とは何かを明らかにする霊長類研究の中で出てきた二つの核、心と文化の基盤に焦点を絞り、最先端の研究結果を分かりやすく紹介します。

司会： 小嶋 祥三 (京都大学霊長類研究所・教授)

「脳の進化と心」



櫻井 芳雄 (京都大学文学研究科・教授)

生物進化の中で、哺乳類、さらに霊長類の脳はより大きく、より複雑に変化し、同時にその可変性や自由度も増してきました。そのような脳の進化が、どのようにサルやヒトの心の柔軟性や個性をもたらしたかについて、わかりやすく解説します。

「チンパンジーの文化」



杉山 幸丸 (日本霊長類学会会長・東海学園大学人文学部長)

人間に最も近い現生動物であるチンパンジーは、高い知能を持っていることが知られています。自然環境の中で彼らはその能力をどう発揮しているのでしょうか。道具使用行動を通じて、それが文化とまで言える段階にまで達していることを紹介します。

口頭発表 7月8日(土) A会場(224号室) 午前

セッション： ロコモーションと成長 (9:00-9:45)

- A001 9:00 周思春期成長パターンの比較
濱田穰・鈴木樹理・大蔵聡・早川清治(京都大・霊長研)・鵜殿俊史(三和化学)
- A002 9:15 ニホンザルおよび他の霊長類の授乳期ロコモーション発達
木村賛(東京大・理)
- A003 9:30 地上性四足歩行型霊長類による樹上移動運動
茶谷薫(京都大・霊長研)

セッション： 運動器の形態学 (9:45-10:30)

- A004 9:45 Slow loris と Greater galago における下腿三頭筋の筋繊維構成
木村忠直(静岡県立大)・熊倉博雄(大阪大・人間科学)・國松豊(京都大・霊長研)・大沼陽介・石田英実(京都大・理)
- A005 10:00 アダムの上腕部筋群の特徴
松本真(川崎医福大)・池田一夫(川崎医大)
- A006 10:15 霊長類における大腿骨と上腕骨の構造適応
山中敦之(京都大・理)

セッション： MRI による形態研究 (10:30-11:15)

- A007 10:30 MRI によるチンパンジー大腿部運動器の機能形態学的分析
松村秋芳・高橋裕(防衛医大)・西村剛・濱田穰(京都大・霊長研)・菊地正嘉(東北大・歯)・伊藤純治・猪口清一郎(昭和大・医)
- A008 10:45 MRI を用いた霊長類脳形態の左右差の検討
三上章允(京都大・霊長研)
- A009 11:00 チンパンジー頭頸部の MRI、ヘリカル CT およびヘリカル CT アンギオグラフィー
富永壽和・吉本信彦・武士侯清彦・鵜殿俊史・早坂郁夫(三和化学)・中市純三(山口大・農)

セッション： アフリカの化石 (11:15-12:00)

- A010 11:15 サンプルピテクスとナチョラピテクスのCT像解析
石田英実・高野智・芝田純也・清水大輔・辻川寛・中務真人(京都大・理)・國松豊(京都大・霊長研)・中野良彦(大阪大・人間科学)
- A011 11:30 ナチョラピテクスの体重測定
高野智(京都大・理)
- A012 11:45 ナチョラピテクス指骨の機能形態
中務真人・石田英実(京都大・理)・國松豊(京都大・霊長研)・中野良彦(大阪大・人間科学)

口頭発表 7月8日(土) A会場 午後

セッション： 系統分類 (13:15-14:15)

- A013 13:15 海岸山脈地域一帯におけるフサオマキザル (*Cebus apella*) の系統分類学的位置付け
小林秀司(中京女子大・人文)・名取真人(岡山理科大)・L. M. ペッソア(リオ連邦大)・
J. A. オリベイラ(リオ国立博物館)・A. L. ラングッチ(パライーバ連邦大)・
瀬戸口烈司(京都大・理)
- A014 13:30 はじめて発見された *Amphipithecus* の上顎歯と前頭骨
茂原信生・高井正成(京都大・霊長研)・鏑本武久(京都大・理)・
江本直子(国立科博)・Tin Thein(パテイン大学)・Soe Thura Tun(タゴン大学)・
Maung Maung(マンダレ-大学)
- A015 13:45 ポンダウン(中期始新世、ミャンマー)の化石霊長類の分類とその系統的位置について
高井正成・茂原信生(京都大・霊長研)・鏑本武久(京都大・理)・
江本直子(国立科博)・Aye Ko Aung・Soe Thura Tun(タゴン大)・
Tin Thein(パテイン大)・Aung-Nai Soe(ヤンゴン大)・Maung Maung(マンダレー大)
- A016 14:00 霊長類の周日性起源
相見満(京都大・霊長研)

セッション： 解剖 (14:15-15:00)

- A017 14:15 ヒトをはじめ動物の組織や器官における微小循環は多くの単位(Angion)で構成されている
時岡孝夫・中島敏明(明海大・歯)
- A018 14:30 老齢ゴリラ脳組織における老人斑の検索
木村展之(東京大・農)・中村紳一郎(日獣大)・成島悦雄・原樹子・七里茂美・
斉藤和夫・野瀬修央・林貴子(上野動物園)・後藤直彰(新日本科学)・
吉川泰弘(東京大・農)
- A019 14:45 カニクイザルの大脳神経細胞の初代培養
根岸隆之・河村晴次・吉川泰弘(東京大・農)・黒田洋一郎(都神研・神経生化学)

口頭発表 7月8日(土) B会場(234号室) 午前

セッション： 分布・現況 1 (9:00-9:45)

B001 9:00 キンシコウの調査の現状
福田史夫(共立薬科大)・李保国(西北大)・和田一雄・小野寺賢介(東京農工大)

B002 9:15 中国地方のニホンザルの集団捕獲
林勝治(広島県立大)

B003 9:30 熊本県における野生ザルの現況
藤井尚教(尚綱大・文)

セッション： 分布・現況 2 (9:45-10:30)

B004 9:45 屋久島のニホンザルの分布と個体数
半谷吾郎(京都大・理)・好廣眞一(龍谷大)・座馬耕一郎・松原始(京都大・理)・
高畑由起夫(関学大)・大竹勝・久保律子・萬田正治(鹿児島大)・大井徹(森林総研)

B005 10:00 ミトコンドリア DNA 多型を利用したヤクシマザルの個体群動態と分布変遷に関する研究
(予報)
早石周平(京都大・理)

B006 10:15 成体メスの頭蓋計測値からみたニホンザルの地域変異
毛利俊雄(京都大・霊長研)

セッション： 種間関係 (10:30-11:00)

B007 10:30 ボッソウのチンパンジーによるハイラックスの捕獲と遊び
平田聡・藤田志歩・大橋岳・松沢哲郎(京都大・霊長研)・山越言(京都大・アフリカ研)

B008 10:45 ベレンティ保護区において観察したマダガスカルチュウヒダカ(Polyboroides radiatus)によるシロアシイタチキツネザルの捕獲
小山直樹(京都大・アフリカ研)

セッション： 社会行動 (11:00-12:00)

B009 11:00 毛づくろい交渉における老齢ニホンザルメスの方略
加藤英子(大阪大・人間科学)

B010 11:15 Hormonal correlates of maternal style in captive macaques
Massimo Bardi・清水慶子・藤田志歩・M. A. Huffman(京都大・霊長研)・
S. Borgonini Tarli(Pisa大)

B011 11:30 ニホンザルの オス交代とオス-メス関係への影響
沓掛展之(東京大・総合文化)

B012 11:45 野生チンパンジーにおける社会的規範? - 対角毛づくろいの誘いかけとその拒否の事例から -
中村美知夫(JMC)

口頭発表 7月8日(土)B会場 午後

セッション： 社会生態1 (13:15-14:00)

- B013 13:15 クモザルの群間関係
稲葉あぐみ(神戸学院大・人文)
- B014 13:30 クモザルの大声・ロングコールとモビングコール
伊沢紘生(宮城教育大)
- B015 13:45 ムーアモンキーの群れの分裂
岡本暁子(京都大・霊長研)

セッション： 社会生態2 (14:00-14:30)

- B016 14:00 チンパンジーとヒトの父系社会
杉山幸丸(東海学園大・人文)
- B017 14:15 ワオキツネザル(Lemur catta)に子殺しはあるか?
市野進一郎(京都大・アフリカ研)

セッション： 民俗&一般 (14:30-15:00)

- B018 14:30 結論と要約-成句「猿猴捉月」の出典と図像変遷の研究(八)
都守敦夫
- B019 14:45 38億年前からたどる自分の祖先の存在史 = 「ヒト生態史」《直立二足歩行に始まらない自分とは何か》
水幡正蔵

口頭発表 7月9日(日) A会場(224号室) 午前

セッション： 染色体(9:00-9:30)

- A020 09:00 マダガスカル国ベレンティ保護区におけるチャイロキツネザル 2 亜種混成群の細胞遺伝学的解析(予報)
郷康広・平井啓久・川本芳・相見満(京都大・霊長研)・小山直樹(京都大・アフリカ研)
- A021 09:15 染色体 44 本テナガザル類における第 8・9 染色体変異とその遺伝的特性
平井啓久・竹中修・毛利俊雄(京都大・霊長研)・
Bambang Suryobroto(ボゴール農科大)

セッション： 分子進化(9:30-10:15)

- A022 09:30 フィリピン諸島におけるカニクイザルの遺伝的分化
川本芳・D. Perwitasari-Farajallah(京都大・霊長研)
- A023 09:45 霊長類におけるドーパミントランスポーター遺伝子の多型解析
井上・村山美穂・安達さとみ・新美陽子・三谷宏明(岐阜大・農)・
竹中修(京都大・霊長研)・村山裕一(農水省・家衛試)
- A024 10:00 霊長類における ABO 式血液型遺伝子の進化
野田令子・北野誉・斉藤成也(遺伝研)・Robert E. Ferrel(ピッツバーグ大)・
竹中修(京都大・霊長研)

セッション： ゲノム・遺伝子(10:15-11:15)

- A025 10:15 Silver: 類人猿ゲノム計画
斉藤成也・北野誉・小早川英美・劉玉華(遺伝研)・植田信太郎(東京大・理)・
Ferrell R.E(ピッツバーグ大)
- A026 10:30 ニホンザル精巣における発現遺伝子の季節変化 ディファレンシャルディスプレイ法による
劉成淑・松林清明・竹中修(京都大・霊長研)
- A027 10:45 Seminal vesicle tissue factor; Its testosterone-mediated down regulation and a new function.
許禎壬・中村伸・平野真・伊藤麻里子(京都大・霊長研)
- A028 11:00 高コレステロール血症サルの LDL レセプターの遺伝子の変異
竹中晃子・天野茜・吉田愛(名古屋文理短大)・竹中修(京都大・霊長研)

セッション： 診断・治療(11:15-11:45)

- A029 11:15 霊長類を用いた遺伝子治療の評価システム
吉川泰弘・河村晴次(東京大・農)・寺尾恵治・加藤賢三(感染研)・
小野文子(予防衛生協会)・早坂郁夫(三和化学)
- A030 11:30 マカクサル B ウィルスの特異的 PCR 検出・同定法
平野真・中村伸・岡田真紀・光永総子(京都大・霊長研)・植田昌宏(エスアールエル)・
Richard Eberle(オクラホマ大)

セッション： プリーディング(11:45-12:00)

- A031 11:45 F1 プリーディングシステムの欺瞞的本質
野口敦夫(筑波大・基礎医学系)

口頭発表 7月9日(日) A会場 午後

セッション： 内分泌 (13:00-14:00)

- A032 13:00 薬理的グルコース代謝阻害によるニホンザルのパルス状黄体形成ホルモン(LH)分泌抑制
大蔵聡・鈴木樹理(京都大・霊長研)・松山秀一・束村博子・前多敬一郎(名大・生命農)
- A033 13:15 ニホンザルの思春期における血中IGF-1および性ステロイドの時系列解析
鈴木樹理・大蔵聡・早川清治・濱田穰(京都大・霊長研)
- A034 13:30 ニホンザルにおける血中レプチン濃度の季節変動
仲庭栄恵子・和秀雄(大阪大・人間科学)・大石巖(日獣大)・本庄勉(森永生科研)
- A035 13:45 ニホンザルにおけるプロゲステロン投与の基礎体温への影響
錦花永・和秀雄(大阪大・人間科学)・鳥居隆三(滋賀医大)

口頭発表 7月9日(日) B会場 (234号室) 午前

セッション： アフリカ熱帯林1 (9:00-9:45)

- B020 9:00 ヒガシローランドゴリラの遊動域と果実のフェノロジー
山極寿一(京都大・理)・Kanyunyi Basabose(コンゴ民主共和国・中央科学研)
- B021 9:15 コンゴのンドキ森林のチンパンジーのグルーピングと構成
鈴木滋・竹ノ下祐二(京都大・理)
- B022 9:30 ガボン、プチロアングの海岸性熱帯林におけるチンパンジーのベッドグループサイズの季節変化
竹ノ下祐二・鈴木滋(京都大・理)

セッション： アフリカ熱帯林2 (9:45-10:30)

- B023 9:45 カリンズ森林における果実生産量とチンパンジーの植生利用の季節変化
古市剛史(明治学院大)・橋本千絵・田代靖子(京都大・霊長研)
- B024 10:00 何がチンパンジーのパーティサイズを決めるのか: パーティサイズの評価方法と決定要因の検討
橋本千絵・田代靖子(京都大・霊長研)・古市剛史(明治学院大)
- B025 10:15 ウガンダ・カリンズ森林の哺乳類バイオマスと環境利用について
田代靖子・橋本千絵(京都大・霊長研)・古市剛史(明治学院大)

セッション： 採食生態（10:30-11:15）

B026 10:30 混群を形成するオナガザルの採食食物の構成と重複
足立薫（京都大・理）

B027 10:45 タイ国カオヤイ国立公園に生息するブタオザルの生態
丸橋珠樹（武蔵大・人文）、北村俊平・湯本貴和（京大・生態研）・
Pilai Poonswad (Mahidol 大・理)

B028 11:00 パタスモンキーとタンタルスモンキーにおける採食速度の種差・性差
中川尚史（神戸市看護大）

セッション： 採食行動（11:15-12:00）

B029 11:15 野生チンパンジーは動作を模倣するか？：ボツソウにおけるアリ浸し釣りの新たな観察
山越言（京都大・アフリカ研）・明和政子（京都大・霊長研）

B030 11:30 ニホンザルにおける採食行動の発達と社会的影響
上野有理（京都大・霊長研）

B031 11:45 ニホンザルの食物をめぐる所有と強奪
松阪崇久（京都大・理）

口頭発表 7月9日（日）B会場 午後

セッション： 個体群・土地利用（13:00-13:45）

B032 13:00 ニホンザル餌付け群における初期死亡率の性差について
栗田博之（京都大・霊長研）・松井猛（高崎山自然動物園）

B033 13:15 幸島に棲む極端に小さな群の土地利用と社会構造
森明雄（京都大・霊長研）

B034 13:30 GPS を用いた野生ニホンザルの群れの広がり の推定
杉浦秀樹・藤田志歩（京都大・霊長研）・齊藤千映美（宮城教育大）

ポスター発表 233号室

在席責任時間 7月8日(土) 15:15-16:15

- P001 成熟期サル小脳における TrkB コンパートメント構造
大平耕司・林基治(京都大・霊長研)
- P002 胎生期チンパンジーの前帯状回における Spindle 細胞について
林基治・伊藤麻里子・清水慶子(京都大・霊長研)
- P003 霊長類小脳、海馬における脳由来神経栄養因子(BDNF)の発達
森琢磨・清水慶子・林基治(京都大・霊長研)
- P004 マカクサル中枢神経系における脳由来神経栄養因子の遺伝子発現
山下大輔・林基治(京都大・霊長研)・山口真二・本間光一(東京大・薬)
- P005 ニホンザル嵐山群の11年後の好みの手の変化
小栗久佳(日本福祉大)
- P006 アカゲザルの視線検出システム
中村克樹(京都大・霊長研)・佐藤暢哉(日本大・医)
- P007 アカゲザルによる Shape-from-motion を用いた図形知覚
海野俊平・井上雅仁・三上章允(京都大・霊長研)、長坂泰勇(立教大・文)
- P008 ニホンザルによる同種他個体の血縁系・年齢クラスの認知
大芝宣昭(梅花女子大・人間科学)
- P009 チンパンジーの記憶範囲：ヒトとの比較
川合伸幸・松沢哲郎(京都大・霊長研)
- P010 チンパンジーの擬音語の理解
小嶋祥三(京都大・霊長研)
- P011 マカクザル乳児における初期知識の発達
藤田和生・石川悟(京都大・文)・友永雅己・松沢哲郎(京都大・霊長研)
- P012 人工哺育ニホンザル乳児におけるヒト養育者への愛着の形成
友永雅己・座馬有代(京都大・霊長研)・井植麻子・川上清文(聖心女子大・文)
- P013 アジルテナガザル(*Hylobates agilis*)の身体成長と行動発達
打越万喜子(京都大・霊長研)
- P014 飼育下オラン・ウータンの母子関係の発達の变化(2)
武田庄平(東京農工大)
- P015 コドモチンパンジーにおける社会的遊びの発達
関根すみれな(林原自然科学博物館)
- P016 チンパンジーのコドモにおける道具使用行動の獲得
森村成樹・関根すみれな・不破紅樹・伊谷原一(林原自然科学博物館)
- P017 飼育ボノボの道具使用 - 熊手づくり -
竹下秀子(滋賀県立大・人間文化)・L. Van Elsacker (Plankendael Animal Park)
- P018 飼育チンパンジーのブランコ利用
寺本研・長野邦寿・早坂郁夫(三和化学)

- P019 メスチンパンジーにおける発情状態の認知実験への影響
田中正之・前田典彦・熊崎清則（京都大・霊長研）
- P020 季節変化が飼育チンパンジーの行動に与える影響
落合知美・松沢哲郎（京都大・霊長研）
- P021 Environmental enrichment effects of tool using task for captive chimpanzees
Maura .L Celli・友永雅己（京都大・霊長研）・鶴殿俊史・寺本研（三和化学）
- P022 飼育ゴリラ集団における近接関係 多次元尺度構成法の適用
中道正之・加藤英子（大阪大・人間科学）
- P023 野生チンパンジーにおける水飲みのための道具使用：野外での実験研究
Claudia Sousa・松沢哲郎（京都大・霊長研）
- P024 野生チンパンジーの道具使用とその文化的変異
松沢哲郎（京都大・霊長研）・Dora Biro（オックスフォード大）・Tatyana Humle（スターリング大）
- P025 食物量の季節変化にともなうチンパンジーの採食行動の季節変化
竹元博幸（京都大・霊長研）
- P026 野生チンパンジーの育児中のメスの社会関係について
浜井美弥（京都大・霊長研）
- P027 ウガンダ・カリンズ森林のアビシニアコロブスの生態（予報）
五百部裕（梶山女子大・人間関係）
- P028 タンザニアのウガラのサバンナヒヒ(Papio cynocephalus と P. anubis)の生態
小川秀司（中京大・教養）
- P029 野生ケナガクモザル(Ateles belzebuth)のグルーピングパターン
下岡ゆき子（京都大・霊長研）
- P030 クモザルの遊動と遊動域の構造
西邨顕達・松下耕平（同志社大・理工研）
- P031 「広く浅いつきあい」を生みだすもの-ムーアモンキーのグルーミングパターン-
松村秀一（京都大・霊長研）
- P032 ニホンザル敵対的交渉における一次攻撃と二次攻撃の相違点
金子実（京都大・理）
- P033 ニホンザルオスの優劣順位が交尾成功をもたらす時、もたらさない時
早川祥子（京都大・霊長研）
- P034 ニホンザルオスの順位年齢構造の人口学的モデル
David Sprague（農環研）・鈴木滋（京都大・理）
- P035 ニホンザルのシラミ卵押収における食物（シラミ卵）と知識のトレードオフ
田中伊知郎（京都大・霊長研）
- P036 現在のニホンザル分布と保護管理の単位としての地域個体群：問題点の整理と検討
渡邊邦夫・室山泰之（京都大・霊長研）
- P037 下北半島における野生ニホンザルの土地利用と季節変化
鈴木克哉（北海道大・文・地域システム）

- P038 高人工林率地における野猿群の遊動
千々岩哲（景生保全研）
- P039 京都府綴喜郡宇治田原町に生息するニホンザルの生態
高木理代・西邨顕達（同志社大・理工研）
- P040 岡山県のニホンザルの分布調査
渡邊義雄（美作女子大）・林勝治（広島県立大）
- P041 中部山岳地方のニホンザル地域個体群の保護管理を目的とした遺伝的モニタリング法の検討
森光由樹・泉山茂之（野生動物保護管理事務所）・赤座久明（新川女子高）・
今木洋大（山梨環境研）・川本芳（京都大・霊長研）
- P042 ニンバ山のチンパンジー集団に観られるマイクロサテライト DNA の対立遺伝子（予報）
嶋田誠・早川祥子（京都大・霊長研）・杉山幸丸（東海学園大・人文）
- P043 チンパンジーの完全長 cDNA ライブラリーの作製、及び ESTs の解析
肥田宗友・伊関可奈子（東京大・理）・富永壽和・武士侯清彦・早坂郁夫（三和化学）・
菅野純夫（東京大・理）・平井百樹（東京大・新領域創成科）
- P044 チンパンジーの膈由来の臭気物質と発情周期
松本晶子（京都大・霊長研）・林由佳子・村上博・森友彦（京都大・食研）・小田亮（名工大）・
前田典彦・熊崎清則・清水慶子・加納隆至・松沢哲郎（京都大・霊長研）
- P045 オスニホンザルにおけるインヒピン分泌の季節変化
伊藤麻里子・光永総子・清水慶子・林基治（京都大・霊長研）・金万洙・近藤昌弘・渡辺元・
田谷一善（東京農工大）
- P046 サル用簡易妊娠判定法の開発
清水慶子・林基治（京都大・霊長研）・B. L. Lasley（U.C. Davis）
- P047 ニホンザルの室内人工繁殖法（2）-顕微受精・胚移植法の検討-
藤浪菜穂子（近畿大）・鳥居隆三（滋賀医大）・細井美彦（近畿大）・和秀雄（大阪大・人間科学）・
入谷明（近畿大）
- P048 メドトミジン-ミダゾラムを用いたニホンザル鎮静法の検討
宮部貴子（東京大・獣医）・加藤朗野・松林清明（京都大・霊長研）・望月学・西村亮平・
佐々木伸雄（東京大・獣医）
- P049 マカカ属におけるメドトミジン/ケタミンを用いた麻酔法の検討
藤田志歩・清水慶子（京都大・霊長研）
- P050 妊娠チンパンジー3 個体における母体と胎児の健康管理
道家千聡・松沢哲郎（京都大・霊長研）
- P051 チンパンジーの正常分娩経過
鵜殿俊史・森裕介・上坂博介・小林久雄・早坂郁夫（三和化学）
- P052 アジルテナガザル 2 例における生後 2 歳までの成長に伴う血液性状の変化
加藤朗野・橋本ちひろ・前田典彦・打越万喜子・水谷俊明・道家千聡・鈴木樹理（京都大・霊長研）
- P053 幸島のニホンザルにおける発育変化と環境依存性疾患の血液診断
浅岡一雄・大蔵聡・室山泰之・濱田穰（京都大・霊長研）

- P054 日本脳炎ウイルスのカニクイザルへの経鼻的感染実験
榊原一兵・向井鎌三郎・中山満・倉根一郎・山田章雄(感染研)・小西英二(神戸大)
- P055 マカク類の糞便内ウェルシュ菌：PCR による検出とストレス指標としての可能性
景山節・小笠原麻美・松林伸子(京都大・霊長研)
- P056 ニホンザルにおける活性酸素の生成・消去に関する酵素系の組織分布と生理的役割
福原亮史・景山節(京都大・霊長研)・手塚修史(名古屋大・情報文化)
- P057 ニホンザルの成長・加齢に伴う精子形成の変化
榎本知郎・中野まゆみ(東海大・医)・松林清明(京都大・霊長研)・長谷川有美(都神研)
- P058 オランウータン、シアマン、アジルテナガザルの精巣微細構造の特徴
中野まゆみ・榎本知郎・長戸康和・花本秀子(東海大・医)・松林清明(京都大・霊長研)・
Dondin Sajuthi・Tuti L. Yusuf・I. Nengah Budiarsa(ボゴール農科大)
- P059 ゴリラ精巣の組織学的特徴
松林清明(京都大・霊長研)・榎本知郎・中野まゆみ・花本秀子(東海大・医)
- P060 チンパンジー気管支の内視鏡を用いた観察
吉本信彦・富永壽和・武士侯清彦・鶴殿俊史・早坂郁夫(三和化学)・佐藤圭創(熊本大・医)
- P061 人工的な餌環境がヤクシマザルの歯列弓および歯の形態に与える影響
阿部操(日本大・松戸歯)・小林秀司(中京女子大・人文)・
竹元博幸・茂原信生(京都大・霊長研)
- P062 東南アジアにおける最初の大型中新世類人猿化石の発見
國松豊(京都大・霊長研)・Benjavun Ratanasthien(チェンマイ大・地質科学)・
三枝春生(人と自然の博物館)・仲谷英夫(香川大・工)・長岡信治(長崎大・教)